

タイで化学架橋塩ビ生産

月100ト、現地企業に委託

ニッピ-昭和興産

【バンコク=渡邊康広】ニッピ(東京都足立区)は、タイで化学架橋による軟質塩化ビニル樹脂コンパウンドの生産に乗り出す。昭和興産の現地法人である昭和興産タイランドと組み、現地コンパウンドメーカーにOEM(相手先ブランド)による供給)生産を委託する。9月から現地生産を開始する予定で、月100トを目指す。昭和興産タイランドが日本を除くアジア市場に拡販する。ニッピが独自開発した化学架橋塩ビは耐熱性などに優れ、加熱により簡単に架橋するため照射架橋に比べ設備投資が安くすむといった特徴がある。自動車のワイヤーハーネス被覆用や電子機器の配線被覆用などを対象に、伸びるアジア市場を取り込む。

車用などアジア開拓

皮革製品やコーラゲン「ニッピ」は、化学架橋による軟「ニッピリンカー」を独自技術製品を手がけるニッピ質塩ビコンパウンド「ニッピ」術で開発、化学架橋で世

界唯一のメーカーとなっている。世界的に塩ビの架橋法は電子線を照射する方法が実用化されているが、照射設備の投資コストが高いほか、工程管理に高い習熟度が求められる。一方、化学架橋は成形後に加熱することにより簡単に架橋するため、高価な設備コストが不要のほか、少量ニーズにも対応できるためユーザーのコスト低減につながる。ニッピリンカーは耐熱性、耐溶剤性、耐ハンダ

収縮性、耐スパッタ性、難燃性に優れるため、自動車用や電子機器用の耐熱電線などに使用されて

いる。日本のほか、台湾、中国の電線メーカーにも採用されている。今回、タイの現地コンパウンドメーカーがOEM生産し、昭和興産タイランドがマーケティングや販売を担い、東南アジアを中心としたアジア市場を広く開拓していく。昭和興産タイランドでは、日系・非日系を問わずアジアの電線メーカーに売り込んでいく構え。すでにインドネシア

などから引き合いがきているとしており、在庫・出荷業務を含め同事業を全面的にサポートしていく。昭和興産タイランドは先ごろ、大日化学工業およびタイのフォルモサ・オーカニック・ケミカル(FOCI)と組み、大日化学の技術でFOCIが金属石鹸を生産し、昭和興産タイランドが東南アジアに販売する体制が開始。今回もこうしたマッチングビジネス拡充の一環となる。